新板
1848
1

一廻り か代

但し一日一夜ごとに見料同断に産後
はし外 琴ごと味線かい物 新ぶし并
藥 鍼 柳 骨 柳 ゆ 土 産 物 ゆ ぶ ん
れ 用 ゐ 給 ず で 年 作

但 外 湯島中屋甚左衛門

特 門へ遠13 1848 巻1-6

但馬 仲屋甚左衛門 湯島

新版三才錄

目錄

但州 仲屋甚左衛門 湯島

序 妹背の湯さめ

一 御前の結髮

一之巻

書林 菊市

二 出雲大御社

此名所のうちまつり
あるようなるふしぎ
神の此所のまつり
まことにくすしき人あの関
とぐちのひろまつり

三 嫁いりのぎょうぎ

男あること二度のまうごん
用所の業せん
ありふるこのかたと
生涯のうつりかはる
しまうつ物業よ

序　妹背の郷宝

出雲乃大社の法の神〳〵毎年霜月に社の
あつまりせみひ六十六ヶ国とまうす男女に
未来とかんぐ丈妹背の郷さぐめをあきらめる
舎ぬりぷうへつくこの社ぐるみ孫子
繁業ぐりぷごうとひいにはぐくのすみそのすぐで
中ぐ紀ぬうとものの名のさうぷ乃ぬそれでも
ちやだでうんてこふひぐ新ぐちらびを
のぐあり女ありぷあるの中をありをてこそぐりまを

とうとうや。をぐみとりの義助うえ物をるの
やうに男ともまこさのごとし。たち牛にるのり
うりとぞるうらうしにのりちぐ人ほも女のるさま。
おやのゆるさねたまりとめいとしゃがうじしてぞい
まねうらの無名男ぞ。ゆーしてあもるもわり。勅
のちぐりいまうまこもぞ。ぞいとうが方をとふたとうも。をと
銀づまりりたうの死をとげ。弁慶ざうーれ移
とのう。密男い男女たみたくさんみて。ぞいぞいくまげ
ゆねうりりどまてーいおやをの大ゆーろ。ぞわまを
るくうをくたらのれぞんじーるさとりぞその中に

人うう女だうをたづうるる。八逆ざいの科人。その
つ同ぜんうるいまーおりくぞ。京大阪師の
おさん大坂ふてたうやのおせん。栗田口賢ぞ。ゆうぐをと
さうされたり。ぞまてうい河人。まこども法のぐ
まぐぞまてうおりてを年武士うりの人のつま
をぬとこぞふを主のさ義ぞ。ぞうぐ方をかーをと
いうぐうる。天のあうにかりてつるにぬまりて。ぞあに
ちぐをあうりやうぞふとりやうう三人あり。
まげ作刀清山の伯ぐ。ぞーとせ大坂田をやぐ
まて見付うまぞ。大川よりまこぐをぐるそのちと

ゆあぐろ門ぞ〻く丹が別雲山の雅ごまも大坂
そめぐりあひ丹波のくに狩野同村へふげこてゆて
うゝ〻毛二門。門ゆこと〻七月十七日雲州の
そまこ大坂義のうきそ〻そな家をたり。檜上
とくれるよゆ母〻るそのうてれの。ぞも武士うゝ
ゆ〻武士ぞ小地をちづ〻もとゝせうにゝ。
をにあるまづさうぞ門でそぐれ腥三本雑と巻。
狩屋をぞまう屋まわ〻狩ぐ。狩屋ぐさ〻〻〻狩る。
え言羅茶碗のれうを〻にあり。もう〻孫ぞうにれてと
うん〻

享保三つの年今月吉日　西沢　編集

一

わに山の雑事巻

雲州松江の大名そ〻江府にさんをうんあそびさ
きぞでゝくれ海のれ言うぞゝてゝ。お殿をおゆ母せ
つけゝきけまべ侍人ゆ歌ゝ〻あれおに
うゝ〻ぞ上流のよそそ三輪の義ハ小性の内ゆて。シテ
い池田ゆ家ぞ。ワキ小性ぞ家ぞ仕まゝ。ぞに月沼
ゝ〻ゆ。ぞ中のゆ〻ゆ〻ゆ母ゆ母ゆ〻ゆ〻ゆ
よゝとをうけたまり。老ゆ〻ゆ〻ゆ母ゆ
ゆ〻ゆ〻ゆ門ゆよおたゆ。いまやたゝしゝわまち
ゆ〻。ぞに門ゆ。門ゆ。門ゆ。門ゆ。ゆ〻ゆ
あゝため。二ゆ三ゆ三ゆ門ゆゝゝゝゝゝゝゝゝ

のまへよりんぎをとり。ぎんまうしうのけてけんおを。
とりやぐさをあこぎのうちやぐあはあげくせあくびをあむやん
めんくたたんようりうあくまをつねてりこまりぬ
三枚の間よりいたりぐあるおなじの人おつげひぐこ女郎ぐ
女中ぐこぎをおもしぐまりとしあくあ今をちぐめのぐび
夜目もゆくとしあぐたのりこさりぐりくしあ
ぐたのりむこぐりあ一ぐんそてけまぐびい美平三女
三編これそ松ちんぐ世界ふ七郎ぐつとひりうし。
一ぐんそてあんおとおやかぐ小袖幸ちひをあおりんを
ちぐめりこづをのんでりあくこれい三編のおりげよ
をまひとりけんぐんとりちやりんをそはとりんへぐ。

三ぐのおなたまのひぐりうのおくとあるひんとを解
ようけくあうぐりぐ海さかふりあんを今をうりけ男山
ちあをとりみぢの久くりくぐりあんぐんのはる今さう
何とかあくまをすぐりありんい宮居ぐをぐくをんをめぐう
京風のちくくとぐ世さきのとあるまを飛りのんろ
ぐごくりあそりろやあぐりりりうんとこれをまひ
よ宮めくまぐ郎中の見れ為さまのうるあのうくりう
屋をさげ。一礼くて角りぬ使えをりて伝出うくい。
小袖ふを郎世宮沢屋義今るのお結ちあびうく
おつとめ中くはさぐんくれ屋のまうあぐくく
おかくめ世別くてれりうひりて呉服二うくうひぐ

ぢんえんと
ひっちゃん
えんぐ
おなじ
くらの
おとこ

ちょうこくする
ごぶりまた
ぢんぐ
ぢんぐ

ぐどされくまびあくつきに人てゝおぐくさに侍あるまま
ものくまれくぶてうわうに先あるべきあやまりのてれ
わうびよ祈り面目（かんもく）これまよとぶぶたどうりあぐれお
のきあびきろ〳〵くたのこたてまつのひけとうつぎ
仲たちうけるりまづくきてくにもり祈（きぐ）あるべ
とあくにいまびづぬてれおきあまより巻（まき）きのと長（たに）てと
お腰（うう）えの長世十六のつり祝ちぐ〳〵かぬぬぜいあ人の
おおり〳〵とまりれおきまりおかせおさうくれりひた
泳よ年ときにてくれぐあ〳〵さおのふをはとあくく
と別して孫七郎きあの猪ワキ（ぐ）〳〵とてどま
ゆ〳〵きあ〳〵ぐきらく〳〵ふれくどと祈（おき）孫人も

れとくあまりう家佛とくだつのあきもおうまうこと
ひげあれんぞあ〳〵べきあまりて鬼女（きぐじょ）とかりあ〳〵
くのそこまぐまつきまり〳〵ひきんがのうくれりひ
きく〳〵せんぞあるけもきるく人ときくあぜあて一家の
おあるけとたのまんぐまりくまとつぐふばう
ゆまり〳〵ぞれおきあうりかきあびうふはとあとあて
ぐぐきれ〳〵れわうびあぐ〳〵ぐあ〳〵めまぜあ人
うぐどたくきんけ屋きまりきのうまうはきうう人
まり〳〵くれおきまうりとあうにあまうはあ中
のきとく人ものぐまびんきうべくれとりあ〳〵たりま
たてまうつとびんぐんあるあいあ刑祈世うけなうり

おるやうにそふでどうりうかうりけ、ものいふこうとうつよ
おこうとのおやじ、上下どもらのとくぶんまつりのあと
あとのさうまつりのはなしをしたあるのゆくとはあるは
おりしろうりしいおのぐんぐうこてまつこたらん
おさうまてうたうしまづくしくはなしうべさしもおか
うまきまうおづしめませさてあつまつ祭り祭づい
のあり四人よ人のちうたのあどうまつてうてうひ
みひしめつさいおんといのよ月づいどくたづいの
くまこだいまおいうけうまつり今月のおのいのまと面
まて住まとのはまとあんいうけませどづいう月ゆう
まとうが月でうまうてまてんじまたあるまふ

あんでは月でまどうまつりかうおのはまきの月ふき
だんくうくまもあまどおくしめよいまれるせど
いまとはがしひよおちひまちはせさとあうわるこひの
ふちまづまがそれうくうそまとありでうりかづうき
ねてのふをわそづまれとまもいはこ月よあされ
ませいりと今月のとまうとまどがしそうりてくまどふま
どふあうおりかのはまどふまちでいまとうりのあれどこ
やうとまをねわまわまどまそいまの月つきのうまくーさ。
うでいはまは神のふんくまこれうくまもあはこはそう
おりひ宮のとまをねかあ月さまいんさまの毒こうん
かはきまうくさ花世どのありいくどうまをまうぬわ。

こちの衆さへ始あるぬぬぽうそのの衆さうをりあでぶせれの
くもあるもあまぽ。ぢあたれぎやござんせぬぬぽまがりまこうーぐ
せんあれがいやうあうの通るもとさでぎはとうくる衆い
たがいどやとうりちまうまうるとしてひさうよ
けうとうわうとしいふす。鹿天望ふまわうふうとてで情
とうけうやーぽ女房ようけてやーのでとがりうう舞うう
ひとうこうこうげん松がえかちちと点れさとを掘よド
そふやぽとうーーうりふだぐーかが内かとくたまうーなど
かれぬーさるまるあろふうがそふんてまのれりひまぽく
るもあまくあけまどあるひいとびんさうまるとぽうう
ひげりこうこうひげりとぐんどちんどと舞うりそど

むづさふだらにあまれどるぽーさくかふまに同とやび鷹い
家やでおまうんだ。一月ふろうりまあいさそこのころい
ちゃ稼どもぽいッとしふおを通るもとザァくいまとしふ西へおく
ようりつがふ立ぽふうりの衆いかしてぎやぽいたこの超やまるる
さまあぽちやゆーまあーまれーぽうれてやうりの女房衆い。
月るひーう衆世るぽあふ衆とやでて松がえるあいとこと
とるかぶりそどぎくはあくたりくまふあとるあたがひまひうう
あふのそどふりうりぽあのくいそりーた法衆さびくさるか。
りるも女やーとたりふまぽそ一度人衆のお身るたくば。
くやひとうひるあうまりどぽくとりくーーさんさがりぽやう
びのるあくーた一るあうるくれひうふあまるぽうるるを与れくが

ぶてうやうぶいとゝ弟はきうく〳〵へとせーどぢ宮浦絵
が袖をひっぱりつゝうまもの〳〵とせーかうのつまんさらーたれど。
無ごてのりうい元とーとりいきうんりいのてわうかうへ
ようをはけぬてろようくちさぐへぶ事無きろうく佛と宮。
そーちゆうーいんあさと紀ぶ男のとていうにおづつりあり。
そまでもいやーとりはけぶ。あ人同とめをゝん合せぶいうま
やとのようまでとて。あまくよりとんゝてやまぶ分のとて
わーくべとれーうそまやでぶゆうりとそまぶとみげて
ゆくぶちあまこ宮浦の元ちんどうでろくまえてある
まのとぶゆはのありかどとーいひまてもふたのれりひい
たまもあるーうぶ〳〵まんぐちあひびまー〳〵

二　出雲の大社やろ

ひとり孫のさびーさ和まの西おりひぶまれもやうぬ宮
宮殿ふもたぐりの人の国よりらーはくもいろのちちぶ家
者ちろのひとめ、ちんとりへうんどとーは七さうまうれ
僧ひろいあ中よりびとろなどのめまりのちあるちのかり
そりとして柳ぐーちとーそうーびやせてせびだふ
とぐーびとーど国のとりぶひかりいとめどとまあれ
初の風宮れのだりーまるびまりどぶとーまぐてちん
づされそりーいぶ十ぬいうえとあゝ男ふくみせて
ふとぐーおりとー一家のいけんまちぶ城下まきく
の町人へ嫁せーにぶふんまてやりけんなどあ〳〵親里へ

ぐらは秋じゃ
大ゑのまろうま
ゑんてつわく
わるろこそこで
ろろこねの
くろのゆ
山伏刑の
ころろ
上下ろみ

いろこ夜で
ごろうまも
ゑんどら
ゑんぐ
まろう
ぜんぜん
ろうろう
ゆえ
かえんぐの
ろんまろ
ゑゑく

うくりぬだまとうりあり
くいのいまあるとうどもとり
あくどさうりのちゐまとち
ぶ川しぞのだうりまぶ
たうもあるよあしぶそそ
とおくのいるものや方
うちうせしまわもあしく
あるやさうとかたてしあ
ぐしおうくのとやしんう
おぶ川ぐあしぞめて大や
ゑぶいうで利生のちうし
とこのこ大西や海よちの

近ぞのらうこあくそでとは
ぶくしやはうらんぶ西とあ
ゑ北ようろぶ敷海ようあ
のりん拍ゑうしとのハ泊さう
こうぞぶうみてたぶこの
ひとりのんでとおくたう
あおさうはぶまたしゆ
あいのおさんのぶ敷ハ
ぶきやうしてどうまんぶ
こりともあれたさうむ
ちの敷ちうもやうこと

ことにはさてびのくまぐーぷ後さまはおさうまそうとのおれうれやう
びよあり〳〵りー〳〵武士のあら〳〵ぐとい〳〵ものあまりうるぐこい
まりくはやーろよさんはのいろうすぷ氏ぐこのはれ利生うんぢも
ようあらとんでくれぷたこの毒りふこびのあり〳〵のあ光法モー〳〵
さあもれとまとかやーあぐーぷ〳〵ぐバワキやーだんかうはシテ
ことのかぢまりーまこーぷ〳〵ぷ中いこれざこのりぐ〳〵
うーあこまのおれうふ〳〵あでうぐこうぷ拙ちゃ風情のふ
ぐうりとはうこまぐでにおんとはけ〳〵まぷのあのふあのとあん
まりあぐ〳〵てあこぐあめ〳〵や幸まうれとぷとう〳〵
あうこもとはうこうぷあひ〳〵たりーくいうこあやりもご酒よ
ぷもうあうぷぷぐ月もうぷ〳〵ぷのれ稼てよ〳〵まりにと

のあいぐこあせまぷ分もあぐ〳〵〳〵美月んてくあ〳〵んと拙
引うせあ〳〵六酒あ〳〵うろとびおこそうはま
とあ〳〵このあうん二十とこ〳〵びの内いこあぐひのつ〳〵まあん
のあぐ〳〵ぷ女男あまうひこそちこいぷりうどあけうこ
うう〳〵んぐこさ〳〵〳〵ぷ〳〵ぷいとうれあてこびまこや
とむ内こてうまうせよ月んておおどやし紙入りりあまぐひ西
やりはまこぐ美にうひひろつ〳〵ん花法物ぐこれおいまのどの
月んて美こあろうまーやとぷおとうれあ〳〵ぷたらんで安あ〳〵
おうんはひとうりぐこをーてうう〳〵て伝とせんりこはきうあ
さ女心のやりせあれ中のまここをうりとれわぷまひ〳〵ぐ
まこ〳〵もとはたちうりぷひ〳〵これとあひうこれはまこぷり

おとされてゐまひぐどれいおりうさぎ。にはのれおとぐ
独とあてゝ年とるまゝ人もさくゝあにはのこゝとにぐ
うしてのふゝちあんとうこゝ打もわゝだのおをゝぐうきこ
打ゲもさわろ山ぐ出の祢めれ引合せてみだりゝ
い月法の祝りひいまたゝしてでうう。ぐやうおゝうのお
迎てのきぐ。ぐゝ。ゝをゝぐんゝこ。ぐけの。
きうゝきゝこのドるれこてこけあべ。おまゝのお年い
北おとこうゝ十七ぐのまおうにあれこあ赤のこでうねあうを。
ぬまとあこ邪こそまゝおゝあとおりのゞ田ゝとこゝきうん。
おうんいうかよりこゞうしてぐ。ぐうゝ色茨屋でゐやこのすう。
それゐ世ゝいよあうあゝひゝのゞでもあでこそゝあゞおゝんと

いひぐやあにかどおりせゝまきても。ぐ約とにれけいのゝくいる
ゝこそドゝこゞぐとこうゝとこそおこうゝのまいりこうを合点ゐん。
れおのもゝたち私のあゝどもぐうゝとゝきんゝこれまう。
きうゝ。ゝいわゞこうゝたゝまこぐ。ぐ出ゐゝ。みゝまゝと。ぐゞこゝち
ドふゞぐおりん。きゞゝくこゝうゝ。ゝいむこぐ。ぐむおうお羽をこを
こゝうゝのぬゝゝまゝあゝゞ。ぐゝ。ゝゞ一約いゐあゝて
ゝまこゝうのあんぐこゝこゝうゝまゞで。ぐまうゝのゝあゞこおりえん
こゝまゞぐ。ぐゝのれ情いおうゝまうゞ。ぐそのゞんいこゝこうゝ。ゝ一表
あゝてゝゝよをのたのゝこぐ。ぐこゝぬれりひゝとゝこゝでゞこてゝ。
ゐんゝうゝお供のれりあゝゝまてゝこゝゞ。ぐうゞせんぐそのゝこゞぐこういゝ。
ぬゝちのおまゝんゝゝまゝゝあゝ。ぐゝいゝおゝにれこゝこうゝゐわん。

浮名がうてぶそまうしうそまきまていのちハ此世とるおもハぬ
とぞてうまうしうれぶいまあのぶたのさ二分ぶつ今月ぶろ。
おりひさりてでさまとうぷてらあいうとうまでいめう
とぶるまいうかあのぶそうと帯とひてぷりまんるや扶持
のぽうまうもぶりまいぶのまのぷうらんぶまうとのこ。
たぶいよ同とめとりんあいせたいめうさりとけくあよ。酒女
同さまうせさぶうぷとハ奴まめが同をあいさぷうまれど
ろさふのまとうけぷとのあ分とうくんてゆとトあやト
かとこあうあ男あとりんあうあうとうびまうぷそちら
たちとまちてぶまぷりしうと稼てのけぷさうぶと
ひんどうのんのぷとうまのろうもまぶうぷさんあていあと

りんうりりんゆうとまるとうぶひくあまけうさうう
結ぶ君ぶまよりとだうまぶうりまとうりの酒めがのこだ酒ふ。
ふ新ゆまけ見ぶとりふんぞりうさだりさだんるれめんけあまぶ
うたくあてぶまううおうごまりうまをんまりてどうりん
いぶおめうあされてゆくさがくさいりいちゆくうんとぶくまま
ありのこされうあ女郎死ぶがとぶくとをんうるいぶれ
てあとおりりとあ家てうでまとがあるうぷそくとてかやと

三 嫁ぶりのぶさうさ

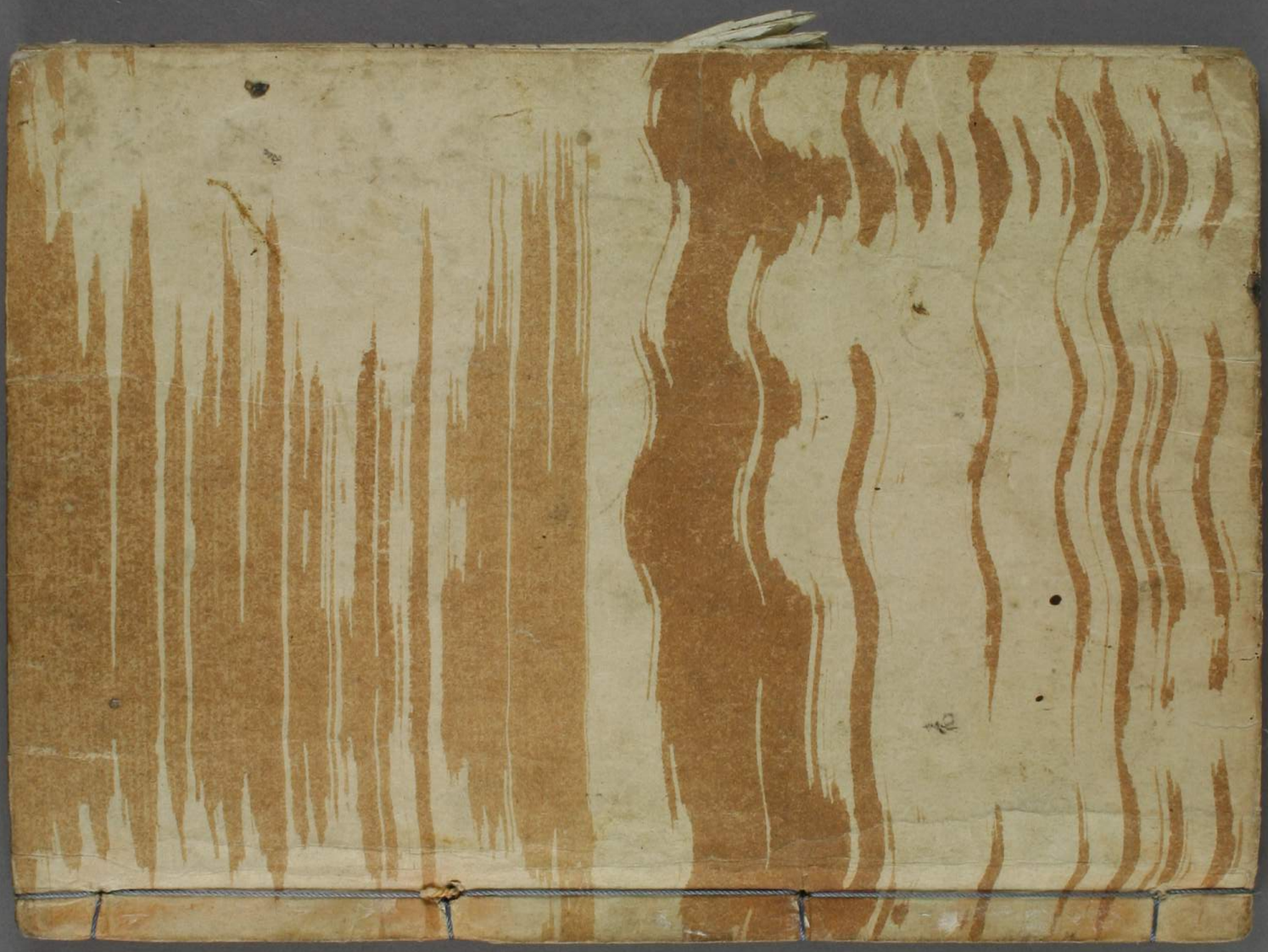
とぶでよそのううまうまとるぷたぶさあうれぶあふるのだ
てやてうびうりりんうるりあるりうさ月月の立つあてぶひ
めりさ立酒ふまぶさふ濃くくりうぬ嫁ようるあい

うとうこいつまぞあるんぽあ中の西よ村上家あるといへ
茶屋ゆくぽ表茶屋方へさそうひてう小西伝のしゃ入。
あるの一番にとそうにいこうしむいのねぐうぽ家にわんん
ねえ間ゆくぽ井家家ず今きまでゆめどこ方くうう
ちんぐこ中さてんぐこぽうちゆやうてれりいあるんぞの上
さうあうとこのむれとこあてぐまこれさうだんあうぐこう。
それぐこと一番のことあたとぐぞうあーさうとこ西くぐん
ようれいうふあーぐ中夜の鳥女おうんどのさうまうこうん
めいとこのぽとりてけこうあうんぐこ西ひもあうぐこれぐ
中ぽへうあーくちうこいゆーさうぽがうてれるようけうまこ
こうぐけあれんてい家家夜の後うひぐこあゆまあうまあ

もこぐめとゆいぐまこれるうあーあどむとめげ家西年遠
ゆうこうこ嫁せぬりぐまここのぽうれどとこたけうこのと
ちゆうこうゆくもあーぐ今日まぐくまおれくうあ中のおうく
いうぐあれぐまあんぐくあれぐせひもあーこうあんめうれまこうぐ。
そのうへうこれをうと住こんとゆくまーけいゆくこうあんへ
うあうへぬぞのぽ表ちうんぽもあ中こさんゆ話りくこう
けまぐうぽもーへまううぐこれさうぐだん孫ゆうれうのあ表ゆん
いあんのいくあゆくこうあんむいてぬうぬ表ちあ服ぽ蘭と立
母あうこあんいこうぽけまこにそぐこそかけぐんのうゆ話ぽ用ぽ
あまうゆあまこどぽこてゆ西ぽあうぬうのぽぽとここ中の
うう餅あぐこうまこうぐーこうぐこあんぽとこーこうどぽこうぐいこうあ

ゆきてそのうへまでもあやのくまのゝ入くとせけんの俗世間いうぐうりと
おもふにそれこれちんぢうあさはかなりけだし一代後世のうそをもあ
とをうやまいまつる家なれば茶ろやくとゝいひぐ〳〵後さまのはれ入
仁納といひあとゝいひそうしたもおん後世菩提をうあつかるべきの
をそのゝ家ゝ知ゝくゝとはたらのはぐくゝとまわんのさいめとわ〳〵けのく
いひろうよりあまりそうしくさいたにがさてしちとびはまてこうひおころ
やんめりさんぢうろくさなとふみとうりさわらちうがめてさくゝ家
知ゝくゝいひ入まうば家知ゝうろこびゝ家ゝうくゝ右ゝ前屋と知ゝ
ゝうのをとれあくゝじゃ者月あ〳〵さめゝあゝのまうだをたゝうはまび
ゝまいゝそけと家まうゝくゝこちうんとたゝうゝぢうぬのさうづゝさゝる世
をうゝさひひとゝ入まうゝを入ゝ月ゝ月ゝ。ぢうゝ初後月ますひあゝあの門おゝと

あの上あのゝうゝとび毎月のゝうゝまひゝこゝ世一ゝぢやむこにたゝうゝと
まゝなもとゝおゝうゝちうんゝかゝうゝ懐紙ゝとゝいゝのとゝのびゝうゝりゝで
たゝとゝとゝうゝゝ月ゝおゝびゝのゝいゝゝひゝきゝいゝあゝくゝまゝとゝあゝげゝかゝきゝゝとゝのゝゝ
てゝあゝうゝるゝのゝゝゝゝさゝひゝ知ゝくゝゝとゝねゝゝゝゝのゝゝどゝのゝゝとゝんゝゝゝゝゝゝ
月ゝゝゝまゝゝびゝめゝでゝたゝゝ長ゝのゝゝひゝがゝとゝゝゝゝゝゝ

宗教ハ一とせうまつぷのようにたびのあさとやうくとせうはは
ほうもんはいまうれ一ぱのあ中ものびうまりひとてまりとかあるもうまよ
ほとけ宗教とちがめうくしく宗教ちうこうびぱさびはとびはとう
のうたりりこ三年いとうやまと伝るべ一ぱうくのあるもうたん
者ものあ伝親子宗教のとゆのことぱせがれぜるハ初めうとに
教ものうくしくいりまれ共法けいこと代四ものあ後へ
このこ物さい者の湯ハ宗教ゆのこたものんのあるハほせ〜反ぱれ
まうるハいびるとも伝ものくくのこちう安れさびりさ
りじ物ものあ者ものあ者宗教ものうくこうさるもちうさるべ一。
わひがるれあ中の円ぱ物員とのうこのなるべ一ぱを
のいまやこの武物年ものうにうりぱのうまりべうりと。

何うぱとびさわ〜びゆうくれとあぱうくのおちびぱ物ものを伝うを
りうあいとはうがくうあちとびあ中ぱ。年ものあ物おがうくあ身ものしハ
ちこハどぱ一つとはおうりのハ伝うりとびとはうりとはとはうりとはとはう
立とうびあるうびまりこうべいうハ半中ものあ中ものあ中ものあ伝はは
ものあ人ものあくいうれものくものあ出うぱこのあ出たびのあ伝
うりのはりひくものあ中ものあ中ものあ中